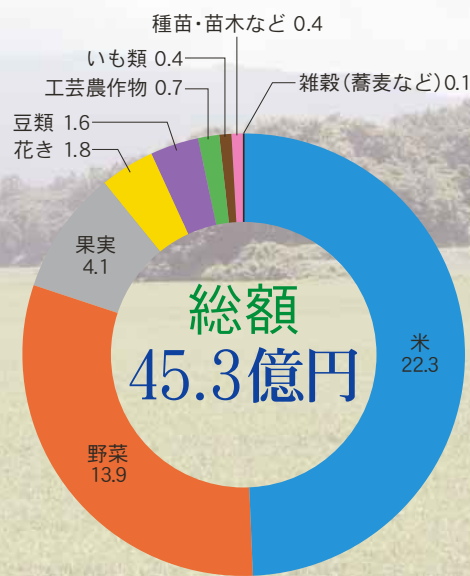


～次世代につなげよう～ 魅力ある農業を目指して

農家の高齢化や後継者不足、遊休農地の増加など農業を取り巻く情勢は厳しい状況が続いています。そうした中、真庭市で新規就農や法人化、6次産業化など農業を守り、育て、発展させていこうとする動きがあります。魅力ある農業を目指して取り組んでいる人たちを紹介します。

真庭市の農産物による産出額

(単位:億円)



(平成18年生産農業所得統計)



県内有数の農業地域
制度を活用し農業振興を図る

農業の発展に向け 課題解決に取り組む

農業の現状や市の取り組み、国の新たな制度などについて
農林振興課の有馬総括参事に聞きました。

真庭市産業観光部
農林振興課
有馬 伸明 ありま のぶあき
総括参事



4月から現職。農林水産省から人事交流で真庭市へ出向中

市内農業の現状

真庭市は農業産出額82・1億円と県内でも農業が盛んな地域です。(県内市町村のうち第4位) 畜産の産出額36・4億円を除いた農産物の産出額は45・3億円となっております、その内約半分が米によるもので22・5億円、次に野菜が13・9億円、そのほかにも果実や花き、豆類などの多くの品目が生産されています。一方で、真庭市の耕作放棄地の面積は昭和55年からの30年間で約5・4倍増加しており、高齢化などによる担い手不足が問題となっております。

市独自の取り組み あぐりネットワーク協議会

このような真庭市の課題への対策として、平成23年に農業関係団体による「真庭あぐりネットワーク協議会」

りネットワーク推進協議会」を設立し、農業生産力の向上を目的に販路の拡大や農家の支援に取り組んでいます。特に大阪府高槻市の農畜産物直売所「真庭市場」はオープンから3年目を迎え、認知度の高まりとともに利用客も増加してきました。



高槻市に設けた「真庭市場」

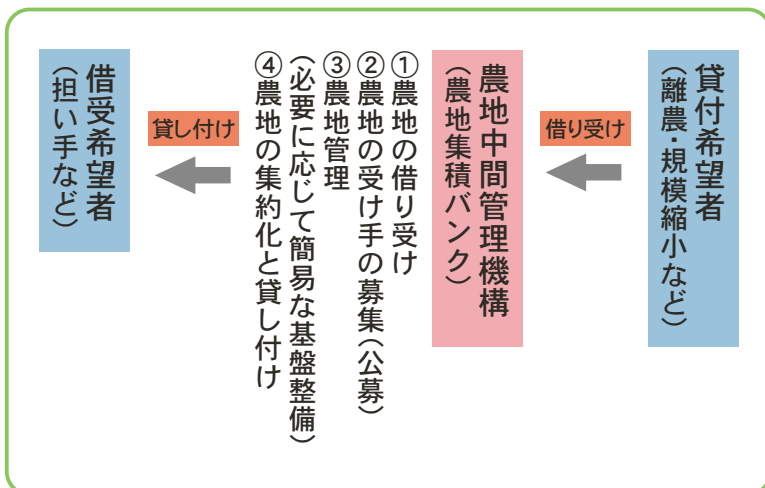
国の新たな動き 農地中間管理事業

今年度から始まる農地中間管理事業は、各集落・地域が抱える人と農地の問題を解決することを目的に昨年度作成された、人・農地プラン(地域農業マスタープラン)を基

域農業マスタープラン)を基に、担い手へ農地の集積・集約を進めていく手段の一つです。本事業では、農地中間管理機構が農地の貸し手と借り手の間に入り、農地の集積・集約の動きを加速させることが目的となります。農地の貸し手の募集は随時行っていますが、農地の借り手の募集は期間が決まっています。(次回の受付は、9月22日から10月22日)

農地中間管理事業とは…

適切な人・農地プランを作成されている地域で、農地を集約することで効率化を図り、意欲ある担い手を公募して貸し付ける事業です。農地中間管理機構が農地を借り受け、まとまりのある形で農地を担い手に貸し付けます。



新規就農や法人化など 市内で新たな動き

近年、Ｉターン、Ｕターンによる新規就農に加え、加工品開発やレストラン運営などの6次産業化、会社の設立といった動きが見られるようになりました。農業規模に合わせて、市や県・国の制度も活用できることもありますので検討されている方は、まずはご相談ください。



形の整ったナスを丁寧に収穫



出荷の最盛期を迎えた千両ナス

家業を引き継ぐこと Uターン前から決心

3年前、家業を引き継ぐために戻って来ました。もともと両親が農家として取り組んでいたので、Uターンする前から帰ったら農業を継ごうと決めていました。農業は露地栽培を行うことにしています。昔はハウス栽培も行っていたのですが、雪害によってハウス4棟が壊れてしまったので、私が就農する前からそうしています。現在、栽培しているものは、水稲3・5畝、千両ナス40畝、ホウレンソウ3畝。そして昨年からは白ネギを80畝で転作として栽培を始めました。

自慢の千両ナス 出荷最盛期を迎える

今は、千両ナスが最盛期を迎えています。収穫は、近所の人にパートで手伝ってもらっています。朝5時から8時まで一緒に収穫を行い、出荷のための選定作業は家族で行います。今年も色艶の良い千両ナスができました。自慢の千両ナスは化学肥料や化学農薬を使わないで栽培すること

にこだわっています。安心・安全なことが消費者の皆さんに受け入れられているのだと思います。

昨年から新たな作物に挑戦 やりたいことはたくさん

昨年からは白ネギの栽培を始めたのですが、課題としては労働力の確保です。ホウレンソウの出荷と時期が重なるので手伝っていただけの人を探しているところです。さらに、将来的には常時雇用することを目標にしています。ですから、生産規模の拡大や多品目生産も視野に入れています。まだまだ検討中ですが麦や大豆などを候補として考えているところです。やりたいことはたくさんあります。生産規模の拡大と常時雇用を目指してこれからも農業を頑張っていきたいと思っています。



水稲から野菜まで 農作業は両親と3人で 家業を継承し 生産規模拡大を目指す

両親と共に農業に取り組む中野和彦さん（余野上）にお話を伺いました。



畑で収穫した採れたての夏野菜

農業をやるうと決心して蒜山にUターンしたのは、平成24年の3月。新しい土地で就農するには年齢的に厳しいと思ひ、どちらかの故郷で就農することを検討し、最終的に蒜山ということになりました。東京郊外に住んでいたときも、自家用野菜の栽培を市民農園を借りて行っていましたが、車で片道2時間以上もかけて農園まで週に1回ほど行っていました。東京の市民

就農をきっかけに蒜山にUターン



科学的な裏付けのある栽培を实践 消費者に安心・安全をお届け

Uターンした蒜山でゼロからのスタート

平成24年3月に真庭市へUターンし就農。山田治郎さん、栄子さんご夫妻（蒜山西茅部）にお話を伺いました。

農園は倍率が高く、抽選に外れて山梨県の市民農園まで通っていました。今は、目の前に農地が広がってますから環境にとっても満足しています。また、蒜山にUターンしたと言っても両親は農家ではなかったたので、もちろん農地もないといった状態。素人が本当にゼロから就農したと言えますね。

こだわりは安心・安全なミネラルたっぷりの健康野菜

私たちのこだわりは、安心・安全でミネラルたっぷりの健康野菜を栽培すること。そのため、化学農薬や化学肥料を使わない栽培方法です。きっかけとなったのは、真庭地域雇用創造協議会が行ったセミナーです。株式会社オファームの小祝政明先生の講演によって、農業の方向性についてぼんやりしていたものが明確になりました。事前に知識が無かったため、すんなり受け入れられたことも良かったのだと思います。

土づくりに費やす時間 結果の違いが歴然

多品目を栽培していくことも検討しましたが、蒜山の気



春と夏の作付け前、追肥の前に自宅です簡易土壌分析を実施

候風土に適したミニトマトとサヤインゲンを中心に栽培しています。土づくりは、農業の基本なので、土壌分析と太陽熱養生処理でミネラルバランスのとれた土づくりを心掛けています。簡易な土壌分析は自宅でも出来るので、追肥前に土壌分析を行い、足りない肥料だけを無駄なく追肥することも可能。ミネラル不足を解消することで、農薬を使うことなく健康的な野菜を作っていくことを目指しています。今も農作業については常に試行錯誤しながらやっていますが、やりたかった農業をやる事ができて充実した日々を過ごしています。



サヤインゲンを収穫する山田治郎さん

集落営農組織から法人化へ
合鴨農法で米づくりを実践

営農組織から法人化へ 新たな挑戦始まる

(株)城北農産あいがもファームを設立し、有機無農薬栽培を実施。代表の福島康夫さんにお話を伺いました。



(株)城北農産あいがもファームの皆さん(一番左側が代表の福島康夫さん)

長年のノウハウを生かし 会社設立へ

農業後継者の集まりで農薬を使わずに米が作れるだろうと話題に上ったのは、昭和60年代。結果として合鴨農法を本格的に始めることになり、勝山無農薬米生産組合を発足させました。平成16年からは有機JASの認証を受け、無農薬栽培を実践しています。そして、今年の3月に(株)城北農産あいがもファームを地元8人が出資し、設立しました。きっかけは「人・農地プラン」。住んでいる地域の農地を今後どうするのか、この課題が大きかったからです。ですから、会社を設立した一番の目的は、地域の農地を守っていくこと。さらに法人化することで農地を直接借りられる



水田で育ったアイガモ



生育を確認し今後の作業工程を判断

るなど、任意組織から法人化したメリットも生かしていきます。また、会社設立により、新たに有機JAS認定を取得しました。現在は、水稲を1・8畝で栽培するほか農作業の受託やライスセンターの運営を行っています。

農地を守りながら 雇用できるかたちに

今後は、水稲に野菜なども含めた経営規模の拡大や担い手の育成などを検討していきたいと思います。新たな挑戦は始まったばかりで苦労も多いですが、農地を有効活用し守っていくことに合わせて、将来的には雇用できるかたちにしていきたいですね。



出荷前の確認で割れた房を取り除く作業



色付きはじめたニューピオーネ

栽培する農産物にブドウを選択
1つ1つ丁寧な手作業で愛情を注ぐ

収穫最盛期迎える うまさに確かな手応え

父の後を継ぎブドウ栽培に取り組んでいる馬場克典さん（三崎）にお話を伺いました。

父の後を継ぐ
ブドウの生産規模を拡大

私がUターンしたのは、6年ほど前になります。帰郷したころは、父が水稲や野菜を栽培していたので、お手伝いとして農業に携わるようになりました。ブドウを10[㍓]ほど栽培していたものを、私が引き継ぐことになり正式に後継者として就農。数年前から毎年栽培面積を増やしていて、現在、面積は34[㍓]で栽培品目は、ニューピオーネとシャインマスカットです。それぞれの特徴ですが、ニューピオーネは、味が濃くて甘味が強く、ほどよい酸味があります。シャインマスカットは、皮ごと食べられること。そして甘味が豊かで人気の高い商品として注目されています。

皆さんのサポートに
感謝しています

栽培技術は、父に学んだり生産組合の勉強会、そして普及指導センターの指導で培ってきました。病気と思われる症状を普及指導センターに相談したときは、すぐに現地確認して的確に助言をいただき有難かったですね。栽培が一番難しいことは、天候ですが、こればかりはどうしようもないこと。今年は天候の悪影響も少なく、色付きもいいため例年と変わらない品質で皆さんにお届けすることができそうです。

目標は、面積拡大と
他品種への挑戦

野菜や果物の中でもブドウが面白そうということで栽培を始めましたが、植えてから本格的な収穫まで5年ほどかかるので、いきなり生産規模を拡大することは難しいですね。今後、少しずつですが栽培面積を増やすことを考えているところです。また、品種は検討しているところですが、他品種の栽培にも取り組んでみたいと思っています。

古民家再生で6次産業化
和風カフェレストランをオープン

農産物の生産から 地元産料理の提供まで

(株)トマトファーム1・2・3の長川常務取締役と「北房ほたる庵」の加戸支配人にお話を伺いました。



常務取締役 長川清志さん
(株)トマトファーム1・2・3

北房ほたる庵
支配人 加戸克明さん



地元産中心のメニューが人気

農業会社を昨年設立 正規雇用へ挑戦

(株)トマトファーム1・2・3は、昨年9月に設立した会社でトマトを中心とした野菜を栽培しており、北房地区のほかにも新見市豊永地区でも行っています。現在、社長を含め7人ですが、農業で雇用を創出していくという会社の方針により従業員は正規雇用しています。農業経験者は2人だけなので農作業を覚えながら、栽培技術も習得中です。そうした状況もあり今年1月に定植したトマトではなかなか苦戦した部分も。A品以外のトマトは、ジャムなどに加工することで商品化も進めています。

憩い処「北房ほたる庵」 地元産に愛される施設が目標

(株)トマトファーム1・2・3を経営していくにあたっては、イメージとして6次産業化にもチャレンジしていきたいと考えていました。さまざまなセミナーなどにも参加して勉強していたところ空き民家の話があり、下皆部地区の古民家を改装し、8月2日には

高校の生物生産科で学んだことを生かせる仕事をしたいと思っていたところ、トマトファームが募集していることを知り就職しました。農薬散布作業1つをとってもまだまだ未熟で、効率的に散布できるように頑張っているところです。しっかりと技術を習得して、消費者の皆さんに、新鮮でおいしい野菜をお届けしていきたいと思います。



高校卒業と同時に 農産物栽培に従事

浅田直輝さん(宮地)

「北房ほたる庵」をブランドオープンすることができました。食事は、地元産の野菜を中心としたメニューを提供しています。またドレッシングにもトマトを上手に使うように心掛けています。おかげさまで想定していたよりも多くのお客さまにお越しいただいています。また、地域の皆さんにも利用していただき、有難く思っています。基本はお食事処ですが、地域の皆さんに気軽に施設を利用していただければと思っています。皆さんからもアイデアをいた



自社のハウスで栽培しているトマトを1つ1つ丁寧に収穫する浅田さん

真庭農業協同組合
びほく農業協同組合

生産者を支える 専門の組織

営農指導や出荷管理、安定供給などの役割を担う農協。
JAまにわ、JAびほくにお話を伺いました。

人と自然を大切に
地域社会の発展に貢献

JAまにわでは、平成25年に営農振興計画を策定し、営農指導や体制づくり、特産品の開発などを重点的に行っています。組合員とのつながりを大切に、大規模農家から小規模農家まで直接農家に向き生産規模や品目に合わせた指導を行っています。そのため、職員は知識向上研修を定期的に受講し、スキルアップを図っています。高齢化が進み、担い手育成が必須となってきた現在、新規就農者の確保も重要な事項となっています。農業は、天候によって品質や量も左右されるので単年だけでなく、長い目で



JAまにわ
営農経済部
松尾佳広 次長



各農家の栽培状況を確認し、細やかな営農指導を実施

見ていく必要があります。

また、直売所「きらめきの里」が平成24年3月からオープンし、JAまにわの直売所は市内に3カ所となりました。家庭菜園から出荷のステップとして利用していただきたいと思えます。おかげさまで「きらめきの里」も認知されてきており、売り上げも伸び続けています。利用者はリピーターも多いです。市外からの利用も増えています。人と自然を大切に、次世代へ農業をつなぐことがJAまにわの最も重要な役割です。そのためにも丁寧な指導で組合員の皆さんを支え、地域社会の発展に貢献していきたいと思えます。

JAびほく
北房総合センター
上山 悟 センター長



きめ細かな営農指導で 農産物の商品力アップを

JAびほくの北房総合センターでは、北房地区全域の農作物を集出荷しています。北房といえばピーオネのほか、野菜でいえばキュウリ、ミニトマト、春菊が3大作物といったところででしょうか。また、転作作物として黒大豆が多いのもこの地域の特徴。品目にも異なりますが、出荷先は主に岡山、大阪、東京です。集荷した場所が産地となりますから、北房でできたものはここから「北房産」として市場に出していきます。

農協としては、皆さんにいいものを作っていたら、少しでも長く出荷をというの

が一番の思いです。ですから営農指導には力が入ります。いいものを作るためには知識が必要です。栽培前にはペーパーでの講習、栽培期間中には現地講習といったように時期に合った形で実施しています。「ちよつと教えて」とお呼びが掛かって個別指導することも多いですね。また、集荷場に来た農家さん同士の情報交換も盛んで、そんな姿を見ると皆さんとても熱心だなと感じます。JAびほくでは直売所・コスモスの里を運営していますが、その登録者は350人にも上ります。直売所や高槻市の真庭市場で売れる実感が楽しみや生産意欲につながっているんだと思えます。そういった意欲を受けながらきめ細かな営農指導を続け、農協系統の出荷であれ、直売所での出荷であれ「北房産」の商品力を高めていく。それが私たちの役割だと思っています。

産地直売「真庭市場」
オープンから3年目に突入

生産者と消費者 をつなぐ最前線

平成24年8月の真庭市場オープンから店長として活躍している小椋大治さんにお話を伺いました。

常連客からの口コミで
新たに来店する人も増加



産地直売「真庭市場」
おぐらたいじ
小椋大治 店長

真庭市場がオープンして3年目を迎えました。私はもともとスーパーで働いていましたが、産直市場は野菜が商品の大半でスーパーとは違うので、開店当初はプレッシャーはありました。幸い、高槻市の皆さんにも認知され、常連のお客さまや口コミによって新たなお客さまも増えていきます。また、近くの飲食店も食材として購入してくれます。現在、商品は約300種で日平均の販売額は約40万円。ブドウの出荷が本格化するこれからは80万円になります。逆に冬季は扱える商品が少なくなるので売り上げも落ちます。

消費者の声を大切に
新鮮な野菜が求められる

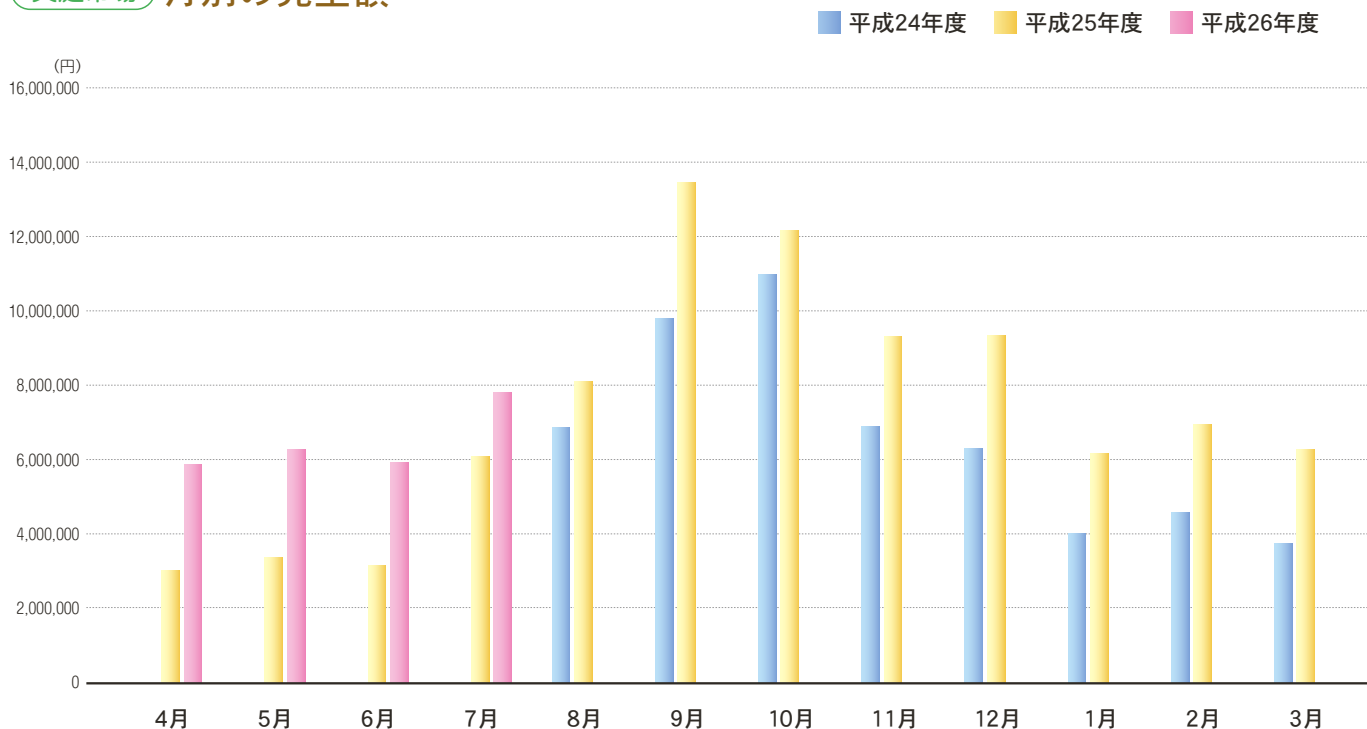
産直市場の役割は生産者と消費者をつなげること。消費

者ニーズは、形よりも新鮮であることです。ですから、生産者の皆さんには鮮度のよい商品の出荷をお願いしています。また、傾向として同じ生産者の野菜を買っています。商品あつての真庭市場ですから、生産者の皆さん、これからも出荷をよろしくお願いいたします。私たちが販売で貢献いたします。そして、真庭の魅力をしっかり伝えていきたいと考えています。



真庭市場に勤務している皆さん

真庭市場 月別の売上額





大阪府
高槻市
から

「今日はどんなんあるんやろ？」 いつも楽しみ“真庭産”

真庭市場は、毎日活気に溢れています。最後に、真庭産を求めて足を運んでくださる皆さんの声をお届けします。



まきの 徹さん(高槻市)

真庭市場には、1年前の移転リニューアルから来させてもらっています。高槻市内で飲食店を経営していて、お店でも家でも真庭産は「ごひいき」。新鮮でおいしくて、そしていろんな品物があるのがいいですね。スーパーや市場に出ない変わったものもあって、お店で出してみると「これ何なん?」「どこで売ってんの?」といった反応がお客様から返ってきます。そんなときは「真庭市場いうのがありましてね…」とご案内させてもらってます。掘り出し物を買ってほしいので、週3回は真庭市場です。真庭の皆さん、いつも楽しみにしていますよ!

トマトをいつも食べていて、実はお気に入りの生産者さんがいるんです。甘みが多くて大好きなので、名前を見て買っています。野菜もおいしいけど、羊かんもいいですね。
高槻市内 女性

安くて、鮮度がいいですね。今日は青大豆を買いました。だんだんとお客さんも増えているようです。頑張ってください。
高槻市内 男性

真庭市場はおいしいものがたくさんあって、移転前からのお気に入り。冬場は商品が少ないけど、あるものを買わせてもらってます。
高槻市内 女性

週に2回くらいの利用でしょうか。新鮮でいいものばかりなので、娘のところに行くついでに、いつも寄らせてもらってますよ。
摂津市 女性

子どもが「おばあちゃんの野菜と一緒に」と喜んでいて、だめだったキュウリも食べれるようになりました。やっぱり新鮮さが違いますね。いつもおいしい野菜を作ってくれてありがとうございます。
高槻市内 女性